

新聞OB 「九条の会」

2026年5月28日 第161号 【部内資料】

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目17番17号 井門本郷ビル6F
 新聞労連気付 TEL. 03(5842)2201 FAX 03(5842)2250
 (郵便振替口座) 新聞OB「九条の会」00130-0-334661

日本国憲法 第二章 戦争の放棄

第九条① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を固実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



西村誠新聞労連委員長から「寄稿文」をいただきました。前号に掲載予定でしたがLINEの不備で原稿確認が遅れてしまいました。おわびして今号に掲載します。ありがとうございます。

寄稿 新聞OB「九条の会」の皆さんへ

新聞労連中央執行委員長 西村誠

衆議院において改憲勢力が3分の2を超え、9条の改正がかつてなく現実味を帯びている。高市政権が「いつでも戦争のできる国」づくりを着々と進める中で、新聞労連も危機感を募らせている。今こそ9条を守る活動を強める時だ。

そのためには右派・左派という政治の文脈ではなく、生活実感から平和を語る取り組みが欠かせない。例えば2026年の防衛費は約9兆円。今後は防衛目的の増税も予定される。市民生活の視点からは許容できないとてつもない金額だ。殺傷能力のある武器輸出は、日本の武器が他国の市民を殺める恐れが生じ、いち市民として受け入れがたい。

新聞労連が危機感を強めるスパイ防止法が制定されれば言論の自由が奪われ、排外主義が強まり、息苦しい社会をつくり出す。一人一人の暮らしから生じる実感を基に想像力を広げ、平和の価値を創造していくことが、9条を守ることにつながるのではないかと思う。新聞メディアはそうした想像力の源であり続けたいと思いたい。

組合員の働く環境を改善する活動やジャーナリズムを守り育てる活動を通じて、新聞労連も平和のために力を尽くしたい。

高市政権が急ぐ「戦争準備の改憲」に、市民の行動で立ち向かいました！

九条の会・会報、2026年5月9日付、第477号から採録しました。

4月12日の自民党大会での演説で、高市首相は、「立憲から70年。時は来しました。改正の発議について、なんとかめどが立ったと言える状態で、皆様とともに来年の党大会を迎えたい」と、1年と期限を切って改憲発議に持ち込む決意を表明しました。5月3日の改憲派の集會に寄せたビデオメッセージでも「国会において決断のための議論を進める」と、改

憲発議へ向けて審査会での審議を急ぐよう訴えています。

それを受けて、衆院憲法審査会でも、衆院選での高市自民大勝の結果つくられた改憲派独占の構成を利用して、緊急事態規定改憲の条文案づくりを先行させ条文起草委員会設置につなげようという策動が、強引に進められようとしています。戦争準備のため、国家情報局設置を目指す国家情報会議設置法案も衆院を通過しました。

しかし、こうした高市政権に危機感を持って、総選挙直後から、若手、現役層、それも多くが女性からなる多数の市民層が改憲、戦争準備に反対する行動に参加するようになり、トランプ政権によるイラン攻撃への怒りも相まって、その規模においても、ペンライトを掲げる行動の形態においても、全国への広がりにおいても新しい市民運動のうねりを作り出しています。

九条の会や憲法9条を護るな！実行委員会、憲法を守り・いかに共同センターなど6団体の呼びかけで、「憲法9条改憲に反対する請願署名」が始まりましたが、そのキックオフ街宣にも多くの市民が集まり多数の署名を集めました。

5月3日の憲法集會にも、東京では5万人にのぼる市民が集まったほか、全国各地で市民の行動がもたれました。高市政権、戦争準備に立ち向かうのは、市民の声しかありません。



4・8国会前集會 写真・山口

4-19

NO WAR! 憲法変えるな!

「国会正門前大行動」3万6千人参加



報告 河野 浩
写真 山口 文昭

現役自衛官が「君が代」斉唱するという政・軍一体化する中、開かれた4月12日の自民党大会で高市総裁は「時は来た」と反動的な決意を露わに憲法改憲に前のめりのもとで、憲法改憲に反対する運動・行動が全国に広がっています。



新聞OB「九条の会」



新聞OB「九条の会」

【ポスターを2種作成して参加しました】

4月19日の国会正門前大行動には3万6千人が参加。連帯の行動が全国、韓国合わせて160か所以上で取り組まれました。この大行動は、「総がかり行動実行委員会」「9条改憲NO! 全国市民アクション」による「19日行動」の一環として行われました。

平和を願う新聞OB・九条の会の仲間もオレンジの「新聞OB会」とブルーの「九条の会」の幟旗のもとに国会正門の前庭に集合しました。写真。

初夏を思わせる暑さの中、色とりどりの旗や思いを込めたプラカードを手に、シニアレビコールならぬコールの呼びかけで「9条守れ」「平和が大事」などリズムに乗って怒りの声を国会内に、そしてホワイトハウスに届くように響かせました。

参加者は女性、若者が多く、雰囲気はさながらピクニック気分。そしてライブのノリで、まさに行動は「明るく

楽しく朗らかにそして勇ましく」と理論だけでなく感性が大切なことを肌で感じる事ができました。

今日の「19日行動」は市民や団体の代表、若者、女性たちが心と思いを込めてスピーチを行いました。

主催者あいさつで憲法共同センターの小田川義和さんは「高市改憲を阻止しよう。反対署名を軸に対話で世論を広げよう」、武器取引ネットワークメンバーの比良恵子さんは「紛争や虐殺を助長する軍事企業に対し、武器で儲けるな」と強調。一般社団法人COLABO代表の仁藤夢乃さんは「戦争に近づくと、真っ先に犠牲にされるのは女性、子供の人権」と指摘。

政界関係として、日本共産党の田村智子委員長は「9条こそ希望」と強調。社民党の堀島瑞穂党首が怒りの声を上げ、「沖縄の風」の高良さちか幹事長がメッセージを寄せました。

また一般公募に応募した市民と国会議員のスピーチも行われ、中道改革連合の有田芳生議員は「私たち国民が憲法改憲は許さないと守ってきた。一緒に戦っていく」と述べ、10代の息子二人を育てる養育の女性は「9条を壊すことは子どもたちの未来を壊すこと、私は絶対に許さない」と訴えました。

韓国からも連帯のあいさつが届き、「4月19日は1960年、韓国において市民の力によってイ・スンマン(李承晩)独裁政権を打ち倒した歴史的な日です。日本と韓国とともに繰り広げられている平和と主権のための戦いは、全地球的な運動へと力強く前進していくでしょう。ともに勝利するその日まで、同志として戦い続けましょう。」(統一への道共同代表 チョ・ウオノさん)。

集会後、新聞の仲間は独自のデモ行進? 団結を強め、明日への戦いのエネルギーを求めて有楽町まで歩を進めました。

東京大集会に5万人

つながろう憲法いかして平和な世界を！



爽やかな風が吹きわたる五月晴れのもと、日本国憲法施行から79年を迎えた憲法記念日の5月3日、続々と人の波が江東区有明防災公園に集まりました(写真)。「つながろう憲法いかして平和な世界を！」2026憲法大集会「同実行委員会が主催し憲法大集会が開催されました。これまで積み重ねてきた国会前行動もあり昨年の3万2千人を上回る5万人の市民で埋めつくされました。私たちが会場に到着した頃、すでに会場入口で配布していたプログラムはなくなっていました。

報告・写真 山口文昭

新聞OB「九条の会」も懐族のもと12人が参加(写真下)。「核兵器なくせ！戦争やめろ！今こそ九条を守ろう！」国家情報化法案NO！やっばり市民と野党の共闘で！」などプラカードをかけたアピールしました。主催者挨拶として市民

核兵器をなくせ！
戦争やめろ！
今こそ9条を守ろう
戦争せず守る！

スパイ防止法
国家情報会議法案
市民の監視 総行・メール盗み見
人権侵害やりたい放題

ポスターを3種作って参加しました。



団体、憲法共同センターの秋山正臣(全労連議長)共同代表は「防衛増税や事実上無制限の武器輸出解禁など、第2次大戦での過ちを繰り返さずとしていく。改憲を許さなかつたのは市民運動があつたからこそ、9条改憲を許さない一点で共闘を強め、戦争に歯止めをかけよう」

と呼びかけました。市民連合の佐々木寛共同代表は「ききな臭い時代に歯止めを、野党共闘を推進し立憲主義を守り戦争の無い平和を実現しよう」と訴えました。同実行委員会の菱山南帆子さんが憲法九条を読み上げました。

スピーチでは日本ベンクラブ前会長の吉岡忍さんは「戦争の放棄と憲法があるからこそ平和な国として価値があります」と述べました。S28代表の仁藤夢乃さんは「世代を乗り越え新たなウネリをつくらう」と呼びかけました。

政壇挨拶では、共産党の田村智子委員長や社民党の福島瑞穂党首、れいわ新選組の山本譲司幹事長、沖縄の風伊波洋一参議院議員から戦争反対、九条守ろうとの護憲の訴えがありました。中道改革連合がメッセージを寄せました。

戦後80年、憲法改正と戦争への危機が高まっています。高市首相は2月の衆院選で3分の2超と圧勝しました。国論を二分する危険な政策を維新の協力により強引に進めています。殺傷

能力のある武器輸出を制限した「5類型」を撤廃し武器輸出を解禁しました。かつて宮澤晋一元首相は「わが国は兵器の輸出をして金を稼ぐほど落ちぶれてはいない」と明快に答弁しましたが、こうした気概は高市首相は持っていないようです。

憲法改正へ露骨な意欲を示す高市首相、戦争への危機な道をまっしぐらに突き進んでいます。参加者の「憲法変えるな！九条守れ！」「退陣、退陣、高市政権！」のラップのリズムにのったコールが青空に響き渡り多くの人波に、改めて希望と元気をもらいました。「戦争する国にはしたくない、戦争しない国であり続けてほしい」と願う潜在的エネルギーは大きなものがあると感じました。また、世界でもアジアでも「戦争のない世界」をめざす大きな流れが起きています。ステージからの「戦争の無い平和に生きられるような世の中を作りましょう」とメッセージの呼びかけに大きく頷きながら会場を後にしました。

憲法9条改悪に反対する請願署名に「協力ください。」

9条改憲を止めよう

市民連合など6団体 新たな請願署名へ



【写真は、「しんぶん赤旗」から】

新たな請願署名を届けよう
と、呼びかける市民連合の代表
表ら11日、衆議院議員会館

みなさん、いかがお過ごしですか。改憲に前のめりの高市早苗政権に不安を感じる、米国とイスラエルによるイラン攻撃に一刻も早く攻撃をやめようと胸を痛めている方も多くでしょう。また地域の「改憲反対」「戦争いやだー」の行動に参加された方もいます。ごくりうさまです。お疲れのところ大変ですが「憲法9条改悪に反対する署名」活動にご協力ください。また署名活動かよ！という方もいるかと思えます。

新聞O B 「九条の会」は、今回は署名数にとらわれずに、署名をどうお願ひしたか、どのような反応が相手側からあったか、どう対応したかを大事にしたいと思えます。

ぜひ同封のはがきに反応・感想を記入されてお知らせください。署名用紙を返却に当たり、次号で封筒をお送りします。それに入れてお送りください。

送り先 〒 335-0004

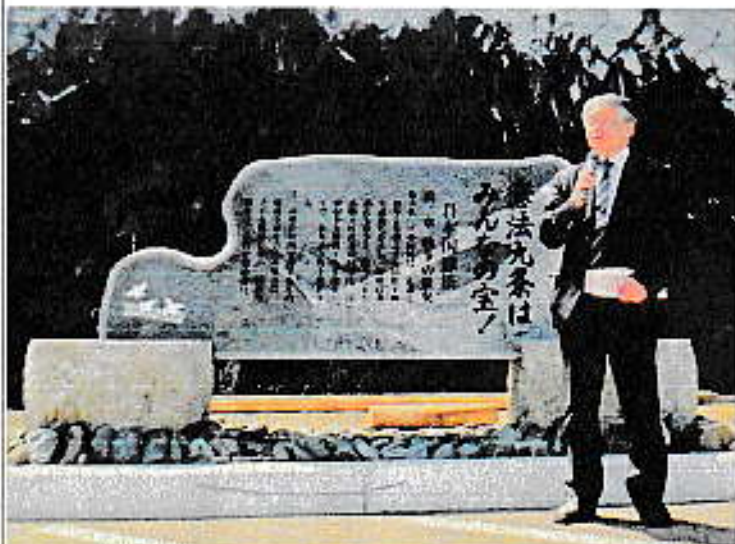
蔵市中央2-41-5

山口 文昭

Eメールは

fumakiz23@outlook.com

福島市渡利の瑞龍寺で開 82 番の憲法9条の碑



憲法記念日の5月3日、福島市渡利の瑞龍寺で国内82番目の憲法9条の碑除幕式が行われました。

約150人が参加する中、実行委員会代表である元福島大学長の今野順夫さん、住職の亘理正明さんがあいさつしました。

続いてジャーナリストの伊藤千尋さんが講演し、高市政権下での改憲勢力への危機感、平和憲法の大切さを訴えた。(写真は講演した伊藤氏)

報告・写真
松尾咲(元福島民友)

漢和

閑話



宇野 靖之

有識者

安保3文書の改訂をめぐり、政府は4月27日、「総合的な国力から安全保障を考える有識者会議」を開きました。同会議は11回開かれるのですが、並行して政府、与党の意向も合わせ、今秋には提言をまとめるとのこと。つまり政府、与党あげて「戦争国家」づくりへ動きを強めているのです。◆それにしても、この有識者会議の顔ぶれを見ると、自衛隊の元幹部や防衛関連産業の関係者、等々ブレイキ役がない。「有識者」の面々です。◆安倍政権の時も有識者というものは、辞書的には「学問があり、見識のある人」なんだのだけどなあーと、

この欄に書いた記憶があります。いずれにしても、安保3文書改訂で論議される内容はコワイイものばかり、「国家総動員権勢」なんてことにならないよう座視しているわけにいきませぬね。◆5月3日、憲法を守り生かそうという行動が全国各地で取り組まれました。小生は5万人集まった東京有明の憲法集會に参加しました。◆侵略戦争と暗黒の時代を乗り越え、平和、国民主権人權を打ち立てた憲法、その憲法を打ち砕こうとする高市政権の企てを阻止し、何としても憲法を守り、生かそうとする声 nationwide 澎湃「ほうはい」として沸き起こっているのだなあと実感した次第。◆筆者からお詫び。当コーナーは柔らかいオアシス的な内容にしないでならないところ、情勢に逆らえず堅い話に終始しました。すみません。

訃報

田熊 光夫さん 82歳(元読売) 1月31日に逝去。つしんでお悔やみ申し上げます。

訂正

前160号 9頁、2段目「侵改」に、最終ページ、入会の訴えて、8行目「専守防

衛、非核三原則」を「専守防衛、非核三原則を堅持し」と訂正します。

今号は新聞労連委員長の寄稿から4・19・5・3の

諸行動への参加者の報告と多彩▼次は「請願署名」のお願ひです。高市政権の暴走を止めるのは国民の声とたたかいです。(全敬啓)